



### 総務省自治行政局過疎対策室

〒100-8926 東京都千代田区霞ヶ関 2-1-2  
TEL. 03-5253-5536 FAX. 03-5253-5537  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jjichi\\_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jjichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm)

### 全国過疎地域自立促進連盟

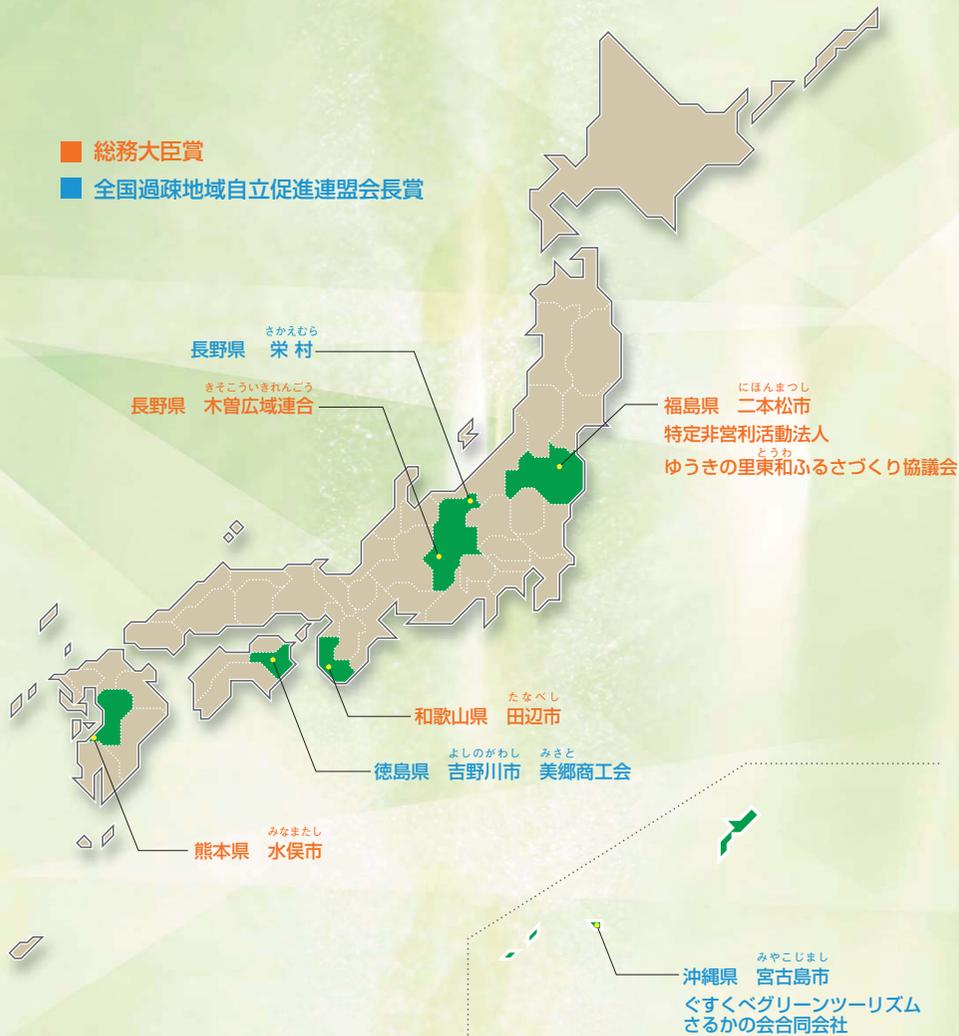
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-13-5 第一天徳ビル 3階  
TEL. 03-3580-3070 FAX. 03-3580-3602  
<http://www.kaso-net.or.jp>

## 平成 21年度 過疎地域自立活性化 優良事例表彰



# 平成 21年度 過疎地域自立活性化優良事列表彰 表彰受賞団体

■ 総務大臣賞  
■ 全国過疎地域自立促進連盟会長賞



## 表彰受賞団体一覧

### 総務大臣賞 (4 団体)

<p>福島県 <sup>にほんまつし</sup> 二本松市 特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 里山の恵みと人の輝くふるさとづくり ～君の自立、ぼくの自立がふるさとの自立～</p>	<p>長野県 <sup>きそこういぎれんこう</sup> 木曾広域連合 豊かな自然を活かした地域活性化と 交流人口の増加 ～広域的な取組による 水と緑のふるさとづくり～</p>
<p>和歌山県 <sup>たなべし</sup> 田辺市 「元気かい！集落応援プログラム」</p>	<p>熊本県 <sup>みなまたし</sup> 水俣市 元気な村づくり ～人が元気、地域が元気、経済が元気～</p>

<p>長野県 <sup>さかえむら</sup> 栄村 「実践的住民自治」の村づくり</p>	<p>全国過疎地域 自立促進連盟会長賞 (3 団体)</p>	
<p>徳島県 <sup>よしのがわし</sup> 吉野川市 美郷商工会 キレイのさと美郷</p>	<p>沖縄県 <sup>みやこじまし</sup> 宮古島市 ぐすくベグリーンツーリズム さるかの会合同会社 宮古島でみつける大切なもの</p>	

## 過疎地域自立活性化 優良事例表彰制度の概要

今日、多くの過疎地域においては、高齢化の進行、人口の減少のため、地域産業が停滞し、生活基盤の格差が残されている等、依然厳しい状況にある。しかし、21世紀を迎え、地域間交流の拡大、情報通信の発達、価値観の多様化等、過疎地域を取り巻く環境、時代潮流は大きく変化している。

こうした中で、今後、過疎地域は、豊かな自然環境に恵まれた21世紀にふさわしい生活空間としての役割とともに、地域産業と地域文化の振興等による個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、過疎地域の住民福祉等のためだけでなく、我が国が全体として多様性と変化に富んだ、美しく風格ある国土を形成することに寄与することを期待されている。

このため、地域の自立と風格の醸成を目指し、過疎地域においてこれらの課題に取り組み、創意工夫により活性化が図られている優良事例について表彰を行い、過疎地域の自立促進に資するものとする。

## 表彰制度の概要

都道府県からの推薦

### 表彰委員会による書類審査

- 地域の自立・活性化について、モデル的・先駆的取組といえるか？
- 地域資源を活用し、地域の魅力を一層高めるものであるか？
- 地域の自主的・主体的な取組であり、住民の積極的な参加・連携が図られているか？
- 都市との連携を図り、地域間交流の拡大に寄与しているか？

表彰委員による  
現地調査

表彰委員会における  
受賞団体の決定

表彰式

日時：平成21年7月8日（水）13時30分  
場所：木曾文化公園（全国過疎問題シンポジウム全体会場）  
長野県木曾郡木曾町日義 4898-37

## 平成21年度表彰委員会委員（敬称略）



委員長 宮口 侘助  
早稲田大学教育・総合科学学術院長



委員 あん・まくどなると  
国連大学高等研究所いしかわ・かなざわ  
オペレーティング・ユニット所長



委員 小田切 徳美  
明治大学農学部教授



委員 椎川 忍  
総務省 大臣官房地域力創造審議官



委員 藤沼 朗寿  
全国過疎地域自立促進連盟専務理事



委員 堂垣 彰久  
NHK「ご近所の底力」  
チーフ・プロデューサー



委員 政所 利子  
(株)玄 代表取締役

## 委員長講評

過疎地域の中にあっても、住民の工夫と活動によって、成長する都市とは違ったかたちでの活性化を実現している貴重な事例が、数多く生まれています。この表彰制度は平成2年度に始まり、すでに大臣賞92団体、過疎連盟会長賞83団体が受賞されていますが、本年度も例にならい、大臣賞4団体、会長賞3団体を選定させていただきました。

総務大臣賞に輝いたのは、まず、福島県二本松市の「NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」です。旧東和町地区の合併後の活性化を図るために12のグループの力を結集、道の駅販売施設の指定管理を中心に特産品の開発や交流事業で大きな活力を生み出しています。続いて、そのすべてが過疎地域である木曾地域の3町3村によって10年前に発足した長野県木曾広域連合は、全域をカバーするCATV網の整備、統一公共サインの設置を始め、木曾川上下流交流など28種類の事業をきっちりと運営され、中山間過疎町村の素晴らしいモデルと評価されました。和歌山県田辺市の「元気かい！集落応援プログラム」は、かつて旧町村で生まれた取組を合併後の市に普遍化し、地区職員の声かけ活動、職員レンジャー隊などで、周辺部の集落を強力にサポートしています。「ハートが重要」という基本認識は、過疎対策の本質を突いていると思います。そして熊本県水俣市の「村まるごと生活博物館」は、上流部の1地区で7年前に始まった活動が4地区に広がったもの

で、建物・田圃・知恵や言い伝えなどを「屋根のない博物館」と見立て、「生活学芸員」が訪れる人を案内し、家庭料理の提供もあり、都会から修学旅行も訪れるようになりました。

過疎連盟会長賞の長野県栄村は、高橋前村長のもとで長年にわたって「実践的住民自治」を育て、独自の設計による「田直し事業」、住民パワーを活用する「げたばきヘルパー」などの取り組みは全国に名をとどろかせました。奥地の小村の取組みとして、未長く学んでいただきたい事例です。徳島県吉野川市的美郷商工会は、旧美郷村の合併をきっかけとして、地域の特性を活かすべく「キレイのさと 美郷」の名のもとに人のパワーを結集し、菓子工房、農家レストラン、山野草商品の開発、梅酒特区の認定など、矢継ぎ早に事業を立ち上げ、地域の宝の発掘に成功しました。そして宮古島市の「ぐすぐべグリーンツーリズムさかの会合同会社」は、旧城辺町時代に住民10人で始まったグリーンツーリズムの取組みが、わずか数年で18校約5500名の修学旅行生を受け入れるまでに発展した例です。飾らない素朴な対応が大きな評価を受けています。

本年度の表彰事例も、広域連合が初めて対象となったのを始め、多様な単位の団体となりました。小さな村の頑張りがあり、合併を契機とした活動、そして合併後に取り組みが普遍化される例もありました。全国の過疎地域は多様です。それぞれに応じたすばらしい取り組みの見本としていただければ幸いです。

# 里山の恵みと人の輝くふるさとづくり ～君の自立、ぼくの自立がふるさとでの自立～

にほんまつし  
福島県 二本松市



道の駅直売所へ農産物を出荷する会員。「ゆうきの里東和」では年2回栽培講習会を実施し、安全・安心な農産物の生産に取り組んでいる。



「桑の葉」、「桑の実」を活用した商品。桑の葉パウダー、桑茶、桑の実ジャム、桑の実ドリンク、桑焼酎、桑パン、菓子類など数多くの特産品を開発。



東和地域の情報発信、交流、地域づくり活動の拠点となっている「道の駅ふくしま東和あぶくま館」。

## 事例の概要

● 二本松市東和地域（旧東和町）は、福島県中通りの阿武隈山系の山懐に位置し、桑畑と棚田が点在する、歴史と文化のいきづく中山間地域にある。NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会は、平成17年の1市3町（二本松市・安達町・岩代町・東和町）の合併を前に、これまで積み上げてきた旧東和町のそれぞれの活動を継続発展させたい、また、高齢化、過疎化の進行を食い止めた、地域の声を行政に届けて行政と一緒に自分たちの地域を守りたいとの住民の強い願いから、地域づくりのNPO法人として平成17年に設立された。

● 活動内容は、東和地域の自然豊かな里山の恵みを生かした地域資源循環型のふるさとづくり、農家、商店、行政及び企業のパートナーシップによる農産物、特産品づくり、「道の駅」を拠点とした都市との交流・健康づくりなど多岐に及んでおり、生きがいや動きがいのある元気な地域づくりを目指し、住民が主体となって様々な事業を展開している。なお、名称の「ゆうき」は、「有機農業」「有機的な人間関係」「勇氣」の3つを意味している。

## 評価のポイント

二本松市は、平成17年12月に二本松市・安達町・岩代町・東和町の4市町が合併し、NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会が活動している旧東和町地域、旧岩代町地域が一部過疎地域となっている。同協議会は、「自立する地域づくり」をテーマに、「道の駅ふくしま東和あぶくま館」を拠点として、安全安心な農産物の生産・加工・販売、桑を始めとした特産品開発、都市との交流や定住・二地域居住の促進、健康づくり活動など市や県、関係団体と連携し、事業を展開している。中でも、交流定住促進では、県外の中・高校生約150名の農業体験受入れや6組10名が新規就農者として定住しており、旧東和町への観光客入込数が年間約17万2千人に増加し、「道の駅」直売所等の売上は約1億5千万円に達するなど、地域の雇用・経済に重要な役割を果たしている。

当協議会の活動は、情報の収集・交換などの面においても一部公的機能の代替を果たすほか、「道の駅」の売り上げによる経済的効果も上げていることから女性を始めとした地域住民の積極的な活動意欲に結びついている。

本事例は、地域の活性化を推進する手法と行動において優れた業績をあげ、地域連携の中核を担っており地域の活性化に大きな実績を残している点が評価された。



都市の中学生の農業体験における昼食風景。田植え、稲刈り、野菜栽培や収穫、わら細工、竹細工など幅広く受入。



東京都世田谷区民祭への出店。東京都では荒川区、中野区、板橋区、墨田区でも出店交流を実施。

## 福島県 二本松市（にほんまつし）



国勢調査人口 (単位：人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
75,634	68,117	67,269	66,077	63,178

人口増減率 (単位：%) 高齢者・若齢者比率(17年)(単位：%)

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率	24.5
△16.5	△7.3	△1.8	△4.4	若年者比率	16.6

### 交通のご案内

自動車 東北自動車道二本松ICから国道4号線県道62号線を經由30分  
鉄道 JR東北本線二本松駅から(ス)50分  
飛行機 福島空港から車で約60分

### 団体連絡先

道の駅「ふくしま東和 あぶくま館」内  
NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会  
〒964-0111  
福島県二本松市太田字下田2番地3  
TEL. 0243-46-2113  
E-mail: yuu.kinosato@piano.ocn.ne.jp

# 豊かな自然を活かした地域活性化と交流人口の増加 ～広域的な取組による水と緑のふるさとづくり～

きそこういきれんごう  
長野県 木曾広域連合



木曾ヒノキを使った「マイ箸づくり」体験にチャレンジする親子（名古屋市：オアシス21）。



木曾の自然の中で取れた木の実を使って、オリジナルの壁掛け飾りを作っている木曾川下流域の皆さん（ふるさと体験館きそふくしま）。



景観に配慮した統一的な木曾広域公共サインを整備し、木曾らしさを演出している。

## 事例の概要

● 木曾広域連合は、木曾町、上松町、南木曾町、木祖村、王滝村、大桑村を構成団体とする広域連合であり、全面積の90%以上が森林であり、全域が過疎地域である。当広域連合では、住民が安心して暮らしていくための居住環境整備や、山里（田舎）暮らしを望む都市住民を木曾地域へ積極的に受け入れることによる定住人口の増加、木曾の豊かな自然を活かした観光・交流産業の振興等様々な分野において、町村の壁を越えて広域的に事業を行っている。

● 活動内容は、木曾全域で景観に配慮した統一的なデザインの家内標識の設置（1,087件）、木曾全域（13,021世帯）をカバーし、地域内公共施設（110か所）を結び生活基盤としての広域的なCATV事業の実施、愛知県中部水道企業団管内5市町、一宮市、名古屋市の上下水道局と市民経済局との間での木曾川上下流交流の推進拡大、木曾川の上下流域住民が一体となって水源地域の森林を整備し、また、木曾川「水源の森」森林整備協定の推進といった事業のほか、福祉施設や廃棄物処理、し尿処理など多くの事業を一本化し、広域的に実施している。

## 評価のポイント

木曾広域連合では、地域の持つ豊かな自然や固有の優れた文化などの地域資源を最大限活かし、誰もが安心して暮らせる圏域づくりを進めている。

景観形成の整備のため公共サイン事業は、木曾全域で景観に配慮した統一的なデザイン案内標識を設置し、地域に散在する資源・施設を顕在化させ、それらをネットワークする観光周遊ルートを構築し、観光客などの来訪者は行政区域を意識することなく移動することが可能となり、自治体を越えた情報提供が行われている。

また、生活基盤整備のためのCATV事業は、地域内公共施設を結びネットワークが整備され、区域内の加入率は95%を超えるまでになり、行政情報提供サービスや音声告知サービスなど、様々な情報伝達が可能となった点は、住民の安心・充実した生活に大きな役割を果たしている。

さらに、木曾川上下流交流事業は、山林の持つ役割として水資源の確保や災害の抑止など、都市住民の過疎地域に対する理解を深め、今後全国での展開が期待される「流域協定」等に基づき、「自然との共生」活動の先駆的なものとして注目されている。

このような取り組みが、全国の中山間過疎市町村のモデルとなりうるとして、評価された。



「平成の名古屋市民の森」で、木曾ヒノキや広葉樹を植樹している名古屋市の皆さん（木曾町の町有林）。



CATV事業によりテレビ向けの情報サービス、音声告知サービス、インターネット接続環境等を整備し、木曾全域の情報ネットワークを構築しました。

## 長野県 木曾広域連合（きそこういきれんごう）

国勢調査人口 (単位：人)				
昭和 35 年	昭和 45 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年
59,598	48,291	37,959	36,500	33,823

人口増減率 (単位：%)				
H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率 (17年)
△43.2	△30.0	△3.8	△7.3	32.8

高齢者比率 (17年)	
高齢者比率	若年者比率
32.8	11.7

**交通のご案内**

自動車 中央自動車道伊勢1Jから国道361号、国道19号経由 35分  
中央自動車道塩尻1Jから国道19号経由 60分

鉄道 JR木曾福島駅から(又はタクシーで)15分  
JR長野駅から徒歩30分

飛行機 松本空港からJR松本駅まで(又は30分) (JR松本駅からJR木曾福島駅まで特急電車で40分、普通電車で1時間15分)

**団体連絡先**

木曾広域連合 総務課  
〒399-6101  
長野県木曾郡木曾町日義4898-37  
(木曾文化公園内)  
TEL. 0264-23-1050  
FAX. 0264-23-1052  
<http://www.kisoji.com/kisokaki/index.html>

# 「元気かい！集落応援プログラム」

和歌山県 たなべし 田辺市



(過疎集落ふれあい体験事業)  
市街地の市民が過疎集落で特産品づくり等を体験するなど、市民相互のふれあいを推進し、過疎集落の活性化を図る。



(過疎集落ふれあい体験事業)  
昔懐かしいわらそうり作りで、田舎暮らしの良さをPR。



(職員による声かけ活動)  
定期的高齢者宅を訪問(声かけ)し、安否確認や地域の情報収集を行う。

## 事例の概要

●平成17年5月に田辺市・龍神村・中辺路町・大塔村・本宮町の5市町村が合併し、全域がみなし過疎地域となった。合併前の旧町村において、それぞれ定住促進・企業の森・特産物生産奨励などの取り組みを積極的に推進していたが、合併を機に、かつて旧町村で生まれた取り組みを合併後の市に普遍化し、地区職員の声かけ活動、職員ランジャー隊などで、周辺部の集落を強力にサポートすることにより、山村地域の振興策の充実を図っている。

●活動内容として、平成20年度は「元気かい！集落応援プログラム」をキャッチフレーズに掲げ、①過疎集落支援事業、②山村地域力再生事業、③定住支援協議会の設置、④企業の森事業の4つの事業を内容とする「元気な地域づくり事業」を実施している。また、「元気かい！応援事業」の一環として、ゼロ予算事業として取り組んでいる職員による声かけ活動は、平成20年度は旧町村部の39地区実施され、過疎地域の住民に安心を提供している。さらに、過疎集落ふれあい体験事業を通じて、活力ある山村づくりを推進している。

## 評価のポイント

田辺市は、平成17年5月に田辺市・龍神村・中辺路町・大塔村・本宮町の5市町村が合併し、全域がみなし過疎地域である。旧龍神村では平成14年から地区担当職員制度を導入し地域との繋がりを保ってきたが、合併を機に「元気かい！集落応援プログラム」に基づく取り組みとして集落対策を対象地域を拡大し、「元気な地域づくり事業」と「元気かい！応援事業」を実施している。

「元気な地域づくり事業」は、給水施設や生活道の維持管理への支援を行う過疎集落支援事業、山の恵みの活用や生活環境整備への支援を行う山村地域力再生事業、移住希望者への地域紹介や案内を行う定住支援協議会の設置、企業等の森林保全活動と体験等の交流による地域振興を行う企業の森事業を内容としており、「元気かい！応援事業」は、定期的な高齢者宅訪問を行う職員による声かけ活動、過疎集落ふれあい体験事業を内容としており、過疎集落ふれあい体験事業では、都市と過疎地域の住民の交流により、途絶えていた祭りが再現されている。

本事例は、合併市町村の抱える課題への対応として、市長から職員まで「ハートが重要」という方針を共有し、ゼロ予算事業の推進、暮らしから交流までの多様な領域の施策を総動員・パッケージ化するなど、きめ細かい支援を行い、地域の住民に安心を提供している点が評価された。

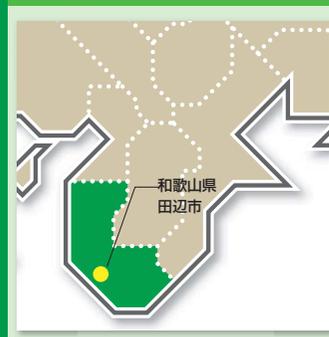


(企業の森事業)  
企業のCSR(企業の社会的責任)活動の一環として、市内の森林環境保全に様々なかたちで取り組んでいただいている。



(企業の森事業)  
田辺市では現在、24の企業等がこの事業に参画しており、117haの伐採地跡に広葉樹等が植栽されている。

## 和歌山県 田辺市 (たなべし)



国勢調査人口 (単位:人)				
昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
92,278	85,347	86,159	85,646	82,499
人口増減率 (単位:%)				
H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率(17年)(単位:%)
△10.6	△3.3	△0.6	△3.7	25.2
				若年者比率 14.4
交通のご案内				
自動車 阪和自動車道南紀田辺ICから県道経由7分				
鉄道 JR紀伊田辺駅から徒歩15分				
飛行機 南紀白浜空港から車で20分				
団体連絡先				
田辺市役所 企画部 企画広報課 〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1番地 TEL. 0739-22-5300 FAX. 0739-22-5310 http://www.city.tanabe.lg.jp/				

# 元気な村づくり ～人が元気、地域が元気、経済が元気～

熊本県 水俣市



村丸ごと生活博物館の生活学芸員（村の暮らしの案内人）。  
“ここは全部おまかせの観光ではなく、あなた次第の「生活の博物館」。今日もあなたに元気を届けます”



生活学芸員が、海外からの訪問者に、先人から受け継いだ石積みのお恵みや技について案内している。【「村めぐり」の様子】



生活学芸員が、地名の由来となった石（頭石）を案内しているところ。【「村めぐり」の様子】

## 事例の概要

● 水俣市では、地域住民が主体となった活動を推進するために、平成 13 年度に「元気村づくり条例」を制定した。そして、条例に基づき、「村丸ごと生活博物館」の指定を行っている。村丸ごと生活博物館とは、集落全体を「生活の博物館」と見立て、訪れる人々に対し、歴史的遺産といった珍しいものではなく、村人自身が当り前の生活を訪問者に案内することで地域と村人を元気にしていく仕組みである。生活博物館には、市から認定された「生活学芸員」が村の案内を、「生活職人」がものづくりなどの体験を担当している。

● 最初に「村丸ごと生活博物館」の指定を受けた水俣川の源流に位置する頭石（かぐめいし）集落は、山間の小さな地域外との交流がほとんどない集落であったが、生活博物館の指定を受けてからは、水俣で最も人が集まる地区になっている。そして、他の地区にも活動が広がり現在では 4 つの地区が指定を受け、これまでに全国各地や海外から 5000 人以上の人々が訪れている。なお、現在、指定されている 4 地区は、頭石地区（平成 14 年）、久木野地区（平成 17 年）、大川地区（平成 17 年）、越小場地区（平成 19 年）である。

## 評価のポイント

水俣市は、平成 17 年度に「水俣市元気村づくり条例」に基づく「村丸ごと生活博物館」として指定した久木野地区にある「水俣市久木野地域振興会」の活動が、過疎地域自立活性化優良事例総務大臣表彰を受けており、現在では市内の 4 地区が「村丸ごと生活博物館」として指定されている。

「村丸ごと生活博物館」は集落全体を「生活の博物館」と見立て、訪れる人々に対し、歴史的遺産といった珍しいものではなく、地域住民自身が当り前とと思っている普通の生活を訪問者に案内することで地域と住民を元気にしていく仕組みである。生活博物館には、市から認定された「生活学芸員」が村の案内を、「生活職人」がものづくり体験などを担当している。

これらの活動を踏まえ、地域の人々は、荒れていた畑に再び野菜をつくり、村の食材を使った食事の提供を行い、その結果、遊休地や耕作放棄地は少なくなり、地域の景観も昔の姿を取り戻しはじめるようになっている。

「生活学芸員」が地域の暮らしを見せ、伝え、交流する活動はきわめて例が無く、無理なく持続的で、かつ、自らの暮らしを高める活動である、また、地域の風土、歴史、生活文化など地域にあるものを「地域の宝」として最大限に生かす地域住民の取組みは先進的なものである。本事例においては、このような点が評価された。



生活職人（生活技術の熟練者）が、ワラを使った足半（あしなか）づくりを訪問者に提供している。【「技めぐり」の様子】



昼食メニューの一例。\*家庭料理とは、3食×365日×50年＝54,750食という村の暮らしの宝箱、その土地の風土とそこに生きた人々の知恵が詰まった食を提供する。【「食めぐり」の様子】

## 熊本県 水俣市（みなまたし）



国勢調査人口					(単位：人)	
昭和 35 年	昭和 45 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年		
48,342	38,109	32,842	31,147	29,210		
人口増減率					(単位：%)	
H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率	29.8	
△39.6	△23.4	△5.2	△6.2	若年者比率	11.2	
交通のご案内					団体連絡先	
自動車	南九州西回り自動車道南北 1-C から国道 3 号線 約 30 分				水俣市産業建設部産業づくり総室 農林水産振興室元気村推進係 〒867-8555 熊本県水俣市陣内 1 丁目 1 番 1 号 TEL 0966-61-1652 FAX 0966-62-0611 http://www.minamimatsuyama.jp/	
鉄道	熊本駅から特急及び九州新幹線利用 約 36 分					
飛行機	鹿児島空港から車で約 90 分					

# 「実践的住民自治」の村づくり

さかえむら  
長野県 栄村



道直しの作業風景。村の臨時職員が作業にあたる。



道直しの際には、線形や施工方法など地域の住民が主体的に参加して決定。



田直しを行う際は、設計図は作らず、住民と施工者、村担当者で充分話し合いのうえ実施。

## 事例の概要

● 栄村は、過疎の村が地域の实情に合った施策を自ら工夫して立ち上げて、実際の事業実施の中に住民が主体的に参加し、「自分たちの地域のことを自分たちが決め、地域の实情にあった政策を実現し、行政の執行過程で住民が直接参加する形を作る」という「実践的住民自治」という考えに基づき村づくりを進めている。人口減少、少子化、高齢化、経済のグローバル化など厳しい現実に直面する中で「行政の執行過程に住民が直接参加する」、「自らの地域のことは自ら決め、地域の实情に合わせた制度を自ら実行する」ことにより、小さくても輝く自治体となるための取り組みを行っている。

● 具体的には、①区画整理事業の一環として、田んぼを自分たちの使いやすいように区画整理する「田直し」、②地区内道路を除雪可能な道路へ改良するための「道直し」、③雪害から住民の暮らしを守る「雪害対策救助員」、④住民パワーで地域の高齢者の介護を行う「げたばきヘルパー」など、行政と住民が一緒になって、幅広い活動を行っている。

## 評価のポイント

栄村は、「実践的住民自治」という考えに基づき、農家が自ら田んぼを使いやすいように村職員と話し合い、村が直営で区画整理を行う「田直し事業」、道路の線形、土地交渉などを地区の中で調整した後に村に要望を出し、施工方法等の協議に住民が主体的に参加する仕組みを作っている「道直し」、村が豪雪地であることから、冬期間における住民の安全と生活環境の維持向上を図る「雪害対策救助員制度」、村のヘルパー養成講習会等で資格を取得した住民ヘルパーが、山里に点在した集落でも24時間態勢でヘルパーが駆けつけ安否の確認と介護を行う「げたばきヘルパー事業」等を行っている。

また、げたばきヘルパー制度では、居宅介護のウエイトを高めることにより、介護給付費を抑制し、介護保険料を他地域に比べて低く設定することが可能といった効果も生じている。

これらの事業は、山間地、豪雪地、高齢化の進んだ地域が生きる道として考え抜かれたものであり、モデル的かつ先駆的な取組みとして県内の他地域に広がるなど、他の自治体の施策にも大きな影響を与えている。

行政と住民の協働が重視されて久しいが、栄村が、住民発意の、住民主導による、住民のための事業という特徴を持っている点において、今日における先進性を有していると言える。本事例は、このような点が評価された。



雪害対策救助員が救助世帯の屋根の雪おろしをしている。雪が多い年は、危険で大変な重労働となる。



げたばきヘルパーは、村のデイサービスでも活躍。

## 長野県 栄村 (さかえむら)



国勢調査人口 (単位:人)				
昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
6,361	4,449	2,896	2,638	2,488
人口増減率 (単位:%)				
H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者・若齢者比率 (17年) (単位:%)
△60.9	△44.1	△8.9	△5.7	高齢者比率 41.4
				若年者比率 10.6
交通のご案内		団体連絡先		
自動車 上信越自動車道豊田飯山ICから国道117号経由40分				
鉄道 長野駅からJR飯山線で森宮野原駅経由で約105分				
栄村 総務課 〒389-2792 長野県下水内郡栄村大字北信 3433番地 TEL 0269-87-3111 FAX 0269-87-3083 Eメール: info@vill.sakae.nagano.jp http://www.vill.sakae.nagano.jp/				

# キレイのさと美郷

よしのがわし  
徳島県 吉野川市



美郷地区は、日常生活では味わうことのできない癒しとスローライフを求める若者グループの来訪者が増加。  
(アフリカ太鼓ジャンベ等の演奏体験を楽しんでいる来訪者。)



農家民宿や農家レストランでは、季節の地元食材を使用した美郷流マクロビオティック料理を堪能することができ、ゆったりとしたなが時間による相乗効果で心身共にリフレッシュ。  
(美郷流マクロビオティック料理を堪能している来訪者。)



美郷の農業の担い手の中心である主婦グループによる地域資源を活用した特産品の研究開発、地域に根ざす女性の知恵と努力のたまものである。

## 事例の概要

● 吉野川市美郷地区は徳島県のほぼ中央に位置し、山々の木々の緑と川田川の清流のせせらぎ、天然記念物(国)指定の「源氏ポータル」をはじめ、古の暮らしが今でも残り、にほんの里100選に選ばれた大神高開地区の「高開の石積み」など四季折々の風物に恵まれた閑静な山あいの里である。美郷商工会は、従来から「美郷物産館」(吉野川市)の指定管理者として特産品の販売や体験型観光などを行ってきたが、平成19年からは、「キレイのさと美郷」を地域コンセプトに掲げ、都会の方に、美郷のキレイな自然・食・体験・人との出会いを通じて心身共にキレイになって欲しいと、様々な活動を行っている。

● 活動内容として、美郷商工会は美郷の地域資源を有効に活用し、交流人口の増加、地域の活性化、観光振興など活発な事業を展開している。具体的には、山野草を活用した特産品を開発する「美郷薬草研究会」の設立や全国初となる梅酒特区認定を活用した「梅酒勉強会」の設立、専門家の指導のもと無農薬薬品や美郷流マクロビオティック料理の開発、販売ルートの新規開拓、意欲ある農家の掘り起こし、春夏秋冬365体験メニューづくりの作成、これに伴う旅行の商品化・調査研究、「体験メニュー」のインストラクターとなる人材育成、全国に向けての積極的な情報発信、魅力あるパンフレットの作成など多岐にわたっている。

## 評価のポイント

美郷商工会は、平成19年度から、「美郷の地域資源活用による新たな特産品づくりと、人の魅力による「食」と「暮らし」体験観光による地域経済の活性化」を基本方針として様々な取組みを展開している。

具体的には、専門家の指導の下、「キレイのさと美郷」をコンセプトにした安全で安心な無農薬農産品等の特産品づくり、マクロビオティック料理の開発、環境や健康を切り口にした体験メニューを盛り込んだツアーの実施、徳島県内初の体験型農家民宿の開業など、様々な角度から、交流人口の増加に資する取組みを行っている。

また、全国初となる梅酒特区の認定を受けたことを契機として、梅酒製造事業所の開業など地域住民の熱意は更に広がってきている。

これらの取組みは、小さな成功体験を積み重ねることを重視したものであり、地域住民の一人一人が生きがいをもって暮らすためにどうすればいいのかを考え、買いた結果である。子育てを終えた50、60代の主婦のパワーを生かすために「食」を通じた「健康」を意識して事業を展開した点も「人」が元気になることを中心に据えた哲学の表れと言える。

このように、地域住民や自治体等と連携しながら、地域資源を積極的に活用した先駆的な取組みを展開することで、過疎地域の活性化に大きな成果をあげている点が評価された。



山野草の可能性を模索する美郷薬草研究会のメンバー、薬草の専門家を定期的に招き商品開発等の研究を行っている。



体験インストラクター指導による山の副産物からすらすら等を使用した自分だけのオリジナルの装飾品づくりが体験できる。(春夏秋冬365体験メニュー)

## 徳島県 吉野川市 (よしのがわし)



**国勢調査人口** (単位: 人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
4,807	3,302	1,657	1,417	1,249

**人口増減率** (単位: %)

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率 (17年)	若年者比率
△74.0	△62.2	△14.5	△11.9	42.8	9.6

**交通のご案内**

自動車 徳島自動車道土成1-Cから国道318号、192号及び193号経由約40分

鉄道 JR徳島線阿波山川駅から市営バスで約10分

飛行機 徳島空港から車で約70分  
高松空港から車で約70分

**団体連絡先**

美郷商工会  
〒779-3504 徳島県吉野川市美郷字辨 463番地3  
TEL. 0883-43-2505  
FAX. 0883-43-2705  
Eメール: tsci@tsci.or.jp  
http://www.tsci.or.jp/misatoya/  
http://amebio.jp/shokokai-misato/

# 宮古島でみつける大切なもの

みやこじまし  
沖縄県 宮古島市



さるかの会メンバー：平成 17 年 4 月に研究会を立ち上げ 10 月に「さるかの会」に改名、平成 20 年に法人として活動を始める。



離島式：離島式を終えて宮古島の家族と。寂しさの中にも、子どもたちの満面の笑顔がそこにあった。



地域散策：近くのインギーマリンガーデンまで。雄大な海を眺めつつ、夕飯の食材の野草を摘みながらのんびり散策。

## 事例の概要

- 少子高齢化の進行、若者の働く場を求めた都市部への流出等、地域の活力低下に危機感を持った旧城辺（ぐすくべ）町住民有志により平成 17 年に「ぐすくベグリーンツーリズム研究会」として結成され、平成 18 年に農村地域の特性を活かした農業体験型の滞在観光をスタートさせた。平成 20 年度には、研究会のメンバーの出資によって合同会社を設立。地域経済を豊かにするために、地域資源を活用した観光業と農業を連動させた農家民泊事業により、都市と農村の交流の促進、地域経済活性化に寄与している。
- 活動内容は、農村地域の特性を活かした農業体験型の農家民泊事業により都会からの修学旅行生を受け入れており、農業体験、郷土料理体験、伝統文化体験、自然体験のメニューを設定し、地元農家によるおもてなしを行っている。受入実績は、平成 18 年度の 1 校 260 名であったものが平成 21 年度見込みでは 18 校 5,500 名と大幅に増加している。それにより体験費や滞在期間における地元での消費など地域経済への波及効果が生み出されている。

## 評価のポイント

ぐすくベグリーンツーリズムさるかの会合同会社の農家民泊事業は、住民自ら地域の活性化振興策を模索し、地域資源を活用した観光業と農業を連動させた取り組みである。この農家民泊事業は都市と農村との人的交流を促進しており、特に都会からの修学旅行生には、人情深い人々の普段のままの生活体験や農・漁業体験、郷土料理体験、自然体験等が心のやすらぎを与えている。

この活動を進める中で、迎える農家側の充実感や達成感、事業の課題や改善点を含めた活動のあり方を考えるきっかけになり、これからの地域づくりを支える原動力となっていくと思われる。

また、島の人情に触れた若者たちが今後も地域の人と繋がり、宮古島を第 2 のふるさとと捉え、リピーターとなる効果も期待できることから、観光産業の将来への持続的な発展に貢献するものと考えられる。

このように、東平安名崎、吉野・新城海岸、友利イムギーマリンガーデンなどの地域資源を活用した都市と農村部との人的交流の促進、地域間の相互理解の深化や地域活性化への貢献が認められる。また、地域住民が連携し、自らの地域を自らの手でつくりあげるために奮闘しており、他の地域の模範となるものと考えられる。本事例は、このような点が評価された。

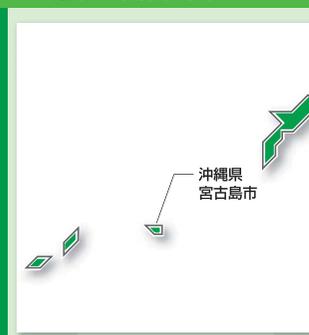


ゆしトーフ：朝食のゆしトーフづくり。昔ながらの石臼で力が入る。にがりは日の出を見ながら今朝近くの海で汲んだ海水を使用。素朴な味に感動しきりでした。



ドラゴンフルーツの植え付け：メッセージの支柱を立て、大きく実がつく頃にまた来ますと約束した子どもたち。

## 沖縄県 宮古島市 (みやこじまし)



国勢調査人口 (単位：人)				
昭和 35 年	昭和 45 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年
69,443	58,667	54,326	54,249	53,493
人口増減率 (単位：%)				
H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12	高齢者比率 (17 年) (単位：%)
△23.0	△8.8	△0.1	△1.4	22.8
				若年者比率
				14.5
交通のご案内				
飛行機 宮古空港から車で約 15 分				
団体連絡先				
ぐすくベグリーン・ツーリズムさるかの会 〒906-0107 沖縄県宮古島市城辺字友利 149-18 TEL 0980-77-7691 FAX 0980-77-7692 http://www.ggt-sarukanokai.jp/				